

医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名*	独立行政法人労働者健康安全機構 大阪労災病院
研究課題名*	当院での慢性膵炎に対する内視鏡治療についての検討
所属科*	消化器内科
研究責任者*	法水 淳
研究実施期間	開始 西暦 2025 年 6 月 1 日 ~ 終了 西暦 2025 年 8 月 31 日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	慢性膵炎症例 (179 症例)
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 2015 年 4 月 1 日 ~ 至 西暦 2025 年 3 月 31 日
研究概要*	慢性膵炎患者において、主膵管狭窄は通常単一の内視鏡的プラスチックステント留置により治療を開始する。それでも狭窄が改善しない難治性狭窄症例では、ステントをフレンチアップしながら繰り返し交換していき、1-2 年の治療でも改善しない場合には外科的手術も検討される。複数本のプラスチックステント留置により慢性膵炎の膵管狭窄の管理を行う事は有効であると示唆されてはいるが、その有効性や安全性、長期的な結果についての報告は乏しい。そこで当院における慢性膵炎治療の結果を集計し、その治療成績について検討した。 2015 年 4 月から 2025 年 3 月までの 10 年間を対象期間としデータベースにて「慢性膵炎」で検索した際に抽出された症例の内、膵管ステント留置を行った症例のみを選択した。そのうち当院では膵管処置を実施していない症例を除外した。 調査項目としては、フォローアップ期間、慢性膵炎の原因、膵管狭窄有無、膵管ステント最大総和径、膵管ステント最大本数、ステントフリーに至るまでの総 ERCP 回数、フレンチアップ回数、ステントフリー達成の有無、膵管拡張バルーン最大径、膵石有無、膵石切石回数、ESWL 実施回数、膵管狭窄再燃の有無、処置に伴う合併症についてを電子カルテ上から調査した。解析方法はカイ二乗検定、T 検定、ROC 解析を使用した。

別紙第 2 号様式

倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	連結不能匿名化を行う。学会や論文等で研究成果を発表する場合も、個人を特定できる情報を明らかにすることは決して行わない。
研究の問い合わせ先*	大阪労災病院消化器内科 岡本 明之、法水 淳

* 記入必須項目